

腎臓リハ NEWS LETTER

<http://jsrr.jimdo.com>

発行：一般社団法人 日本腎臓リハビリテーション学会

〒980-8574 仙台市青葉区星陵町1-1 東北大学大学院医学系研究科 内部障害学分野

Tel:022-717-7353 Fax:022-717-7355 Mail:jsrr@naibu.med.tohoku.ac.jp

平成 28 年度診療報酬改定

「腎不全期患者指導加算」認定と今後の対応

一般社団法人 日本腎臓リハビリテーション学会
理事長 上月 正博

熊本地震で亡くなられた方々に御冥福を申しあげますとともに、御遺族の皆様にお悔やみを申しあげます。負傷された方々、被災された皆さまにお見舞い申し上げます。

本年度診療報酬改定では、糖尿病性腎症の患者の重症化や透析導入を防ぐため、質の高い運動指導の評価のために、新たに「腎不全期患者指導加算」が設定されました。「慢性腎臓病運動療法料」の設定に向けて、日本腎臓学会、日本透析医学会、日本心臓リハ学会、日本リハ医学会の先生方と共に、武居光雄理事・診療報酬対策委員長を中心に陳情活動を展開してきましたが、今回はその一部が認められました。

1) 施設認定

「糖尿病透析予防指導管理料」に関する施設基準取得が必要で、HbA1c 6.1%以上又は内服薬やインスリン製剤を使用している通院患者であって、透析を行っていない糖尿病性腎症第2期以上の患者に対し、医師が糖尿病透析予防に関する指導の必要性があると認め指導を行った場合に、専任の医師、当該医師の指示を受けた専任の看護師（又は保健師）及び管理栄養士（以下「透析予防診療チーム」という）が、日本糖尿病学会の「糖尿病治療ガイド」等に基づき、患者の病期分類、食塩制限及びタンパク制限等の食事指導、運動指導、その他生活習慣に関する指導等を必要に応じて個別に実施した場合に月1回に限り350点が算定できます。

施設基準の取得には、1) 透析予防診療チームが設置されていること、2) 薬剤師、理学療法士が配置されていることが望ましいこと、3) 糖尿病教室を定期的実施すること等により、糖尿病について患者及びその家族に対して説明が行われていること、4) 糖尿病透析予防指導管理料を算定した患者の状態の変化等について、所定の用紙を用いて、地方厚生局（支）局長に報告していること、5) 糖尿病透析予防指導管理料の施設基準に係る届出を所定の様式で行うこと、が条件です。

2) 指導内容と加算条件

本年度、腎不全期の糖尿病性腎症の患者に運動指導を行い、一定水準以上の成果を出している保険医療機関に

対して糖尿病透析予防指導管理料に「腎不全期患者指導加算（月1回100点）」が設けられました。算定要件として、腎不全期（eGFR 30mL/分/1.73m²未満）の患者に対し、専任の医師が、当該患者が腎機能を維持する観点から必要と考えられる運動について、その種類、頻度、強度、時間、留意すべき点などについて指導し、また既に運動を開始している患者についてはその状況を確認し、必要に応じてさらなる指導を行います。

施設基準の条件として、運動療法の介入前と介入後3ヵ月程度のアウトカムとして、1) 血清クレアチニンもしくはシスタチンCの不変・低下、2) 尿蛋白排泄量の軽減、3) 血清クレアチニンもしくは血清シスタチンCによる推定GFRの低下率の軽減を確認する、の3条件のうちいずれか1つを満たす症例が5割を超えている必要があります。さらに、糖尿病透析予防指導管理料の算定要件に、保険者による保健指導への協力に関する事項を追加する。すなわち、保険者から保健指導を行う目的で情報提供などの協力の求めがある場合に、患者の同意を得て、必要な協力を行います。具体的な運動内容、禁忌、中止基準などに関しては、本学会ホームページの「保存期CKD患者に対する腎臓リハビリテーションの手引き」を参考にしてください。

本学会が要求してきた「慢性腎臓病運動療法料」は、本来は保存期糖尿病性腎症のみならず、保存期CKD一般や透析患者をも含む出来高のリハ料・運動療法料です。今回認定された腎不全期患者指導加算は、わずか4年の交渉で獲得に成功した成果であるとはいえ、認定された対象は糖尿病性腎症で腎不全期にあくまで限定的なものであり、対象範囲を早急に拡げていく必要があります。腎不全期患者指導加算を本来めざしていた慢性腎臓病運動療法料に今後発展させるべく、CKD2期以上や透析患者でも運動療法のエビデンスをさらに強固にして、適応拡大、増点になるように活動を継続します。皆様にはCKD2期以上や透析患者での運動療法のアウトカム評価のご協力をお願いします。

腎臓リハビリテーションガイドライン作成にむけて

一般社団法人 日本腎臓リハビリテーション学会
理事 山縣 邦弘

このたび、腎臓リハビリテーションガイドライン作成委員会による腎臓リハビリテーションガイドライン作成にむけた活動が開始されることになりました。これは本学会のここまでの順調な発展と合わせ、2012年に「腎臓リハビリテーション」(上月正博 編著)が刊行され、また本学会ホームページ上には、「保存期腎不全に対する腎臓リハビリテーションの手引き」(日本腎臓リハビリテーション学会作成)が示され、さらに平成28年度からは進行した糖尿病性腎症に対する運動指導の評価として「糖尿病透析予防指導管理料 腎不全期患者指導加算100点」が診療報酬として新たに認められることになり、医療としての腎臓リハビリテーションの位置づけを明確にし、患者予後、QOL、満足度を最大化する医療を提供するための診療ガイドラインの作成を本格的に検討する時期にきたことが背景にあるものと思われます。

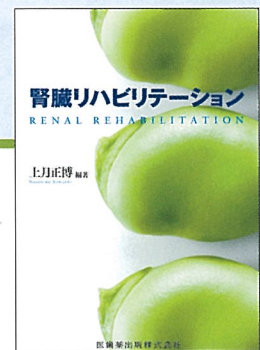
また診療ガイドラインの作成方法も時代とともに

大きく変わってきており、腎臓リハビリテーションガイドラインについても、近年のガイドラインの作成手法に則り、エビデンスのシステマティックレビュー、患者ケアの最適化を意図した推奨文の作成、ガイドラインの質保証としてのQuality indicatorの利用、ガイドライン作成への患者参加などが求められます。

そこで平成28年3月に開催の第6回日本腎臓リハビリテーション学会でのワークショップ「CKD・透析における運動療法のガイドライン策定に向けたエビデンスの構築」(座長 東北大学大学院医学系研究科内部障害学分野 伊藤修、筑波大学医学医療系腎臓内科学 山縣邦弘)での議論をもとに、どこまで有用なガイドライン作成が可能となるのか、まずはこのあたりから検討を始める予定です。有用なガイドライン作成のために会員の皆様のご協力、ご支援が不可欠です。何卒よろしくお願い致します。

●本邦初の「腎臓リハビリテーション」の成書!

腎臓リハビリテーション



- ◆上月正博 (東北大学大学院医学系研究科内部障害学分野教授) 編著
- ◆B5判 508頁 定価(本体9,500円+税)
- ◆ISBN978-4-263-21868-6

■おもな特徴

- 新たな内部障害リハである「腎臓リハビリテーション」について、①腎疾患に関する基礎、②リハビリテーションの基本、③包括的腎臓リハに必要な基本的知識、④腎臓リハの実際と進め方を最新の研究成果、エビデンスをふまえて解説!
- 包括的腎臓リハに必要な、栄養、薬物療法、看護、精神・心理的サポートについても詳細、かつ具体的に解説!
- 約300点の豊富な図表、約90点の用語解説やコラムにより、読みやすく工夫された構成となっている。

■おもな目次

- | | |
|-----------------------|---------------------------|
| 第1章 腎臓リハビリテーション総論 | 第4章 腎臓リハビリテーション各論 |
| 第2章 腎臓病をめぐる基礎知識 | 第5章 併存症に対するリハビリテーションのポイント |
| 第3章 腎臓リハビリテーションに必要な評価 | 第6章 腎臓リハビリテーションの運営 |

医歯薬出版株式会社 ☎113-8612 東京都文京区本駒込1-7-10 TEL03-5395-7610 http://www.ishiyaku.co.jp/
FAX03-5395-7611

第6回学術集会報告

第6回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会

会長 榎野 博史

岡山大学病院 病院長

副会長 重井 文博

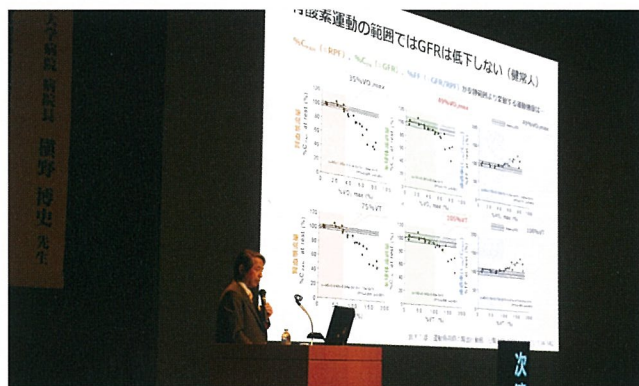
医療法人創和会 理事長・しげい病院 院長

平成 28 年 3 月 26 日、27 日の 2 日間、岡山コンベンションセンターにて第 6 回学術集会を開催致しました。多くの皆様のご支援を賜り、1500 名以上の多数の方々にご参加を頂きました。また口演、ポスター合わせて 239 題と過去最多の一般演題のご応募を頂き、盛会のうちに無事終了することができました。ご協力頂きました全ての関係の皆様へ、心より厚く御礼を申し上げます。

本学術集会は「腎臓リハビリテーションの深化をめざして～チームによる内部機能再生と QOL 改善～」をメインテーマに、会長講演、理事長講演、特別講演、教育講演、シンポジウム、ワークショップ、よくわかるシリーズ、Young Investigator Award (YIA)、ジョイントシンポジウム（日本心臓リハビリテーション学会、日本リハビリテーション医学会、日本腎不全看護学会）、How to session、ランチョン・イブニングセミナーなど多数の企画を設けました。腎臓リハビリテーションに関する最新の知見に関するご発表を頂き、学術集会にふさわしい活発な討議が行われました。本学術集会を通じて、腎臓リハビリテーションが運動耐容能の改善のみならず、内部臓器の機能再生や個々の

QOL 改善をもたらすことがより一層明らかとなり、腎臓病患者の予後向上につながる契機となれば幸甚に存じます。

最後になりましたが、この度、岡山の地で本学術集会の開催の機会を頂きましたことに深く感謝を申し上げます。腎臓リハビリテーションが全国的に更に普及し、本学会が今後益々発展することを祈念致します。



第6回学術集会 Young Investigator Award 受賞者紹介



小崎 恵生 筑波大学大学院人間総合科学研究科

「中高齢者における定期的な運動がもたらす腎保護作用 —尿中L型脂肪酸結合蛋白に着目して—

この度は、第6回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会において Young Investigator Award 大会長賞という大変榮譽ある賞にご選出していただき、誠に光栄に存じます。今回我々の研究グループは、まだ腎障害が進行していない健康な中高齢者であっても、定期的に運動を行うことによって、腎内微小循環動態を反映する尿中L型脂肪酸結合蛋白(L-FABP)が低下することを示しました。しかし、運動で尿中L-FABPが低下する分子メカニズムや正常範囲内で低下した尿中L-FABPの意義など、不明な点も多く残っております。今後は、学会の際に頂いたご質問やご指摘を参考にさせていただきながら、更なる検討を行っていく予定です。もとより経験の浅い若輩者ではございますが、腎臓リハビリテーション領域の発展に少しでも貢献できるよう精進する所存です。どうか今後とも、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



米木 慶 北里大学大学院医療系研究科

「血液透析患者の身体的フレイルと骨量低下の関連性」

この度、第6回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会 Young Investigator Award 副会長賞を受賞致しましたことは、ひとえに、ご指導頂きました先生方や研究室の方々の支援の賜物と厚く御礼申し上げます。本邦の透析医療の進歩・発展は、多くの透析患者の長期生存を実現しており、近年では、健康寿命の延伸への取り組みが求められています。腎臓リハビリテーションの中核をなす運動療法は、透析患者の日常生活活動レベルや生活の質を向上させるのみならず、腎機能改善や透析導入防止のための治療としての可能性が高まっています。一方で、本邦には、透析患者の運動療法に関するガイドラインはなく、質の高いエビデンスの構築が急務な課題となっています。この度の受賞を励みに、腎臓リハビリテーション分野の発展に少しでも貢献できるように一層研究に取り組み、論文として公表できるように尽力していきますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願い致します。



川上翔太郎 福岡大学大学院スポーツ健康科学研究科

「腎血流量を減少させない安全な運動強度とは」

この度は第6回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会 YIA 副会長賞にご選出していただき、大変光栄に存じます。ご指導いただいた檜垣靖樹先生、安野哲彦先生をはじめ、協力していただいた研究室の方々に心より感謝申し上げます。慢性腎臓病患者に対する運動療法の効果に関してのエビデンスは、未だ確立していない状況にあり、そのエビデンスの確立が求められます。我々の研究では、ヒトを対象に一過性の運動が腎血流量に及ぼす影響を強度別に検討しております。今回、我々は腎機能が正常である健常者を対象に、異なる運動強度に対する腎血流量の変動を検討し、腎血流量がAT強度まで有意な低下を示さず、血中乳酸値の上昇に伴い減少することを確認しました。その背景には交感神経系の亢進が関与している可能性が考えられます。今回の結果は、腎機能低下を予防する効果的な運動プログラムづくりへの基礎的データを提供できるものであると考えております。今回の受賞を励みにより一層努力し研究に取り組み、腎臓リハビリテーション分野の発展に微力ながら貢献していければと思っております。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



1. 病院紹介

当院は都内にまだ透析病床が50床程度しかない1973年に透析専門病院として開院し、以来腎不全患者の診療を中心に地域に密着した医療サービスを提供してきました。現在、附属クリニックと合わせ94床の透析センター、26床の急性期病棟、34床の療養病棟を有し、透析患者数は320名です。埼玉県春日部市と千葉県船橋市に関連病院があり、法人では800名を超える透析患者の診療を行っています。

2. 腎臓リハビリテーション

各透析室に理学療法士を配置し、医師、透析スタッフ及び専属の管理栄養士・薬剤師とチームを組み、個々のライフステージに合わせた包括的リハビリを実践しています。運動療法は原則透析前・非透析日を推奨しており、ストレッチ、空圧トレーニングマシンによる筋力強化運動、有酸素運動を基本とし、個々が抱える骨関節疾患やADL低下にも適宜対応しています。自己通院が困難な患者は当院の送迎車の利用が可能です。本人や家族の負担が軽減され、リハビリの高い継続率につながっています。また、就労など時間的制約や継続性を考慮するケースでは透析中にも実施しており、有酸素運動の他、負荷調整が可能なチューブによる筋力強化運動を実施し、健康寿命の延長に努めています。

3. リスク管理

運動療法開始時には循環器専門医による評価が実施され、全例に運動負荷試験を実施し、効果的かつ安全な運動処方なされています。また、ADL低下によりエルゴメーター乗車が困難な場合は、仰臥位用エルゴメーターによる負荷心電図検査により安全管理に努め、虚血性心疾患の早期診断にもつながっています。



医療法人社団嬉泉会 嬉泉病院

〒125-0041 東京都葛飾区東金町 1-35-8

URL: <http://www.kisen.or.jp/>

4. 在宅復帰支援・地域連携

高齢透析患者を取り巻く介護・福祉環境は厳しく、通所リハ・介護、入所施設など、受入れ可能な施設が少ない現状があります。そこで当院では、入院リハビリ中の透析患者の在宅復帰支援に力を入れています。透析患者の高齢化に伴い透析チームに医療ソーシャルワーカーが加わり、ケアマネジャーとの連携、通所・入所施設からの研修受け入れ、家族、訪問ヘルパーや施設職員を対象とした毎月の調理実習と日常的な栄養・服薬指導を積極的に実施し、現状の打開を図っています。さらに、近隣のクリニックから通院困難となった患者を受け入れ、一定期間透析及びリハビリを実施することで地域クリニックへの復帰を支援する取り組みも実施しています。透析専門病院として、透析患者にとって住みよい社会作り、地域包括ケアを推進し、心身と生活を支える一貫したリハビリテーションに取り組んでいます。



第7回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会のご案内

第7回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会

会長 山縣 邦弘

筑波大学医学医療系臨床医学域腎臓内科学 教授

副会長 小林 正貴

東京医科大学茨城医療センター 病院長

このたび、第7回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会を、平成29年2月18日(土)、19日(日)の2日間、つくば国際会議場で開催いたします。

わが国の高齢者人口は今後も増え続け、平成37年には全国民の約30%が65歳以上の高齢者になると言われています。同時に慢性腎臓病(CKD)に罹患し、重症化したために透析を要する患者が年々増加し、平成26年末には透析患者数は32万人を超えました。年齢が高くなるほどCKDの患者数は多くなることも明らかとなり、高齢化が進むわが国においてCKD患者の重症化を予防することは喫緊の課題です。そのためには、CKD患者に発症リスクの高い脳卒中、心筋梗塞などの心血管疾患の予防や、その原因となる糖尿病、高血圧、動脈硬化症などの生活習慣病の予防と対策が不可欠であります。さらに患者のADL改善、低栄養の改善、サルコペニア・フレイルへの対策、QOL向上という目標を達成するための方策が必要です。

腎臓リハビリテーションは、その概念は浸透してきたものの、腎臓病患者への運動療法の適用や方法、評価方法についてはエビデンスが十分でない部分もあります。今後は腎臓リハビリテーションの診療ガイドラインの作成も視野に入れ、エビデンスの検証と創設が必要とされることとなり、本学術集会でも多くの演題やセッションで各施設の取り組みや研究について活発な議論が交わされることを強く望んでおります。

このような中、平成28年度からは、診療報酬改定に伴い、進行した糖尿病性腎症に対する運動指導の評価として、糖尿病透析予防指導管理料に運動指導を行うことで腎不全患者指導加算が新設され、また人工透析患者では下肢の血流障害を適切に評価し早期治療介入を行う下肢末梢動脈疾患指導管理加算が新設されました。これらは腎臓リハビリテーションに不可欠な、腎臓病患者への運動療法やフットケアの診療上の意義が認められたこととなります。本学術集会では各施設での実践の報告や今後の診療を検討するセッションも設けており、参加者にとっても興味を引く企画の一つと考えております。

本学術集会では、会長講演、理事長講演、特別講演、教育講演、シンポジウム、日本リハビリテーション学会や日本心臓リハビリテーション学会、日本腎不全看護学会、日本フットケア学会とのジョイントシンポジウム、ワークショップ、よくわかるシリーズ、YIAセッションを予定しております。腎臓リハビリテーションに関わる多職種の皆様にとって実りある内容にすべ

く、また年々増加する参加者の皆様のご期待にお応えできるよう、身の引き締まる思いで鋭意準備を進めております。

開催地のつくばは「科学の街」として、多くの研究機関が集まる最先端の科学技術拠点として飛躍を遂げています。また2月中旬は筑波山で梅まつりが開始され、春の訪れを感じることが出来る時期でもあります。本学術集会へは多くの皆様にご参加をお願い申し上げるとともに、関係各位のご支援とご協力をいただき、充実した学術集会となることを祈念しております。ぜひ、つくばで皆様にお会いできることを楽しみにお待ちしております。

第7回 The 7th Annual Meeting of Japanese Society of Renal Rehabilitation
日本腎臓リハビリテーション学会
学術集会

● 2017年2月18日(土)・19日(日) ● つくば国際会議場

● 山縣 邦弘 筑波大学医学医療系臨床医学域腎臓内科学教授

● 小林 正貴 東京医科大学茨城医療センター病院長

腎臓リハビリテーションの実践と創造 —CKD治療の展開に向けて—

<http://www.mtoyoyou.jp/jsrr2017/>

主催：日本腎臓リハビリテーション学会
協賛：株式会社メディカル未来、エコーシステム、日本透析医学会、日本腎臓学会、日本心臓リハビリテーション学会、日本腎不全看護学会、日本フットケア学会、日本透析医療従事者協会、日本透析医療従事者協会、日本透析医療従事者協会、日本透析医療従事者協会、日本透析医療従事者協会

会 期：平成29年2月18日(土)、19日(日)

会 場：つくば国際会議場

テーマ：腎臓リハビリテーションの実践と創造
—CKD治療の展開に向けて—

会 長：山縣邦弘 (筑波大学)

U R L：http://www.mtoyoyou.jp/jsrr2017/

一般社団法人 日本腎臓リハビリテーション学会

●会員現況 (平成 28 年 5 月 12 日現在)

正会員数 524 名 (医師 272 名、医師以外 282 名)

施設会員 66 施設 賛助会員 2 社

だてクリニック 東北大学大学院医学系研究科内部障害学分野 東北大学大学院医学系研究科腎高血圧内分泌分野
 JCHO 仙台病院 りふの内科クリニック 常磐病院 自治医科大学腎臓内科 奥田クリニック
 小山すぎの木クリニック 筑波大学医学医療系腎臓内科学 かわしま内科クリニック 太田ネフロクリニック
 大島記念嬉泉病院 平山病院 くぼじまクリニック 関越中央病院 小川病院 埼玉草加病院 武蔵嵐山病院
 圏央所沢病院 昭和大学医学部内科学講座腎臓内科学部門 親水クリニック 東久留米クリニック 嬉泉病院
 つばさクリニック 聖マリアンナ医科大学病院腎臓・高血圧内科 くらた病院 みずのクリニック
 向陽メディカルクリニック 篠ノ井総合病院 五条川リハビリテーション病院 岐阜市民病院 長浜市立湖北病院
 みずほ病院 井上病院 いぶきクリニック 関西医科大学香里病院 重井医学研究所附属病院 岡山西大寺病院
 幸町記念病院 おさふねクリニック しげい病院 倉敷中央病院 大町土谷クリニック 小田内科クリニック
 興生総合病院 尾道クリニック 井口医院 JA 広島総合病院 香川大学医学部附属病院循環器・腎臓・脳卒中内科
 キナシ大林病院 北条病院 松山西病院 福岡大学医学部腎臓・膠原病内科学講座 古賀病院 21 三光クリニック
 新王子病院 小倉第一病院 牧野医院 諏訪の杜病院 あけぼのクリニック 鶴田病院 長崎腎病院 池田病院
 高田病院 徳山クリニック

●役 員

理事長 上月正博

副理事長 伊東春樹 伊藤貞嘉 斉藤喬雄

理事 秋澤忠男 秋葉 隆 安藤康宏 和泉 徹 草野英二 武居光雄 中西 健 平松義博 槇野博史

松嶋哲哉 松永篤彦 水内恵子 保嶋 実 山縣邦弘 (計 18 名)

監事 佐藤徳太郎 田熊淑男 原田孝司

幹事 伊藤 修 柴垣有吾 中山重雅 伊藤大亮

代議員 青池郁夫 明石嘉浩 浅野貞美 浅見豊子 安達 仁 安達裕一 阿部高明 阿部貴弥 安保雅博

安藤亮一 池田久雄 石井孝典 井関邦敏 磯 良崇 伊丹儀友 伊藤孝史 伊東 稔 岩根美紀

植田敦志 宇田 晋 内田明子 内田俊也 海老原至 大石義英 大川卓也 大宮一人 大屋祐輔

大和田滋 緒方浩顕 岡本威志 奥田康輔 小田弘明 甲斐平康 笠原正登 柏原直樹 金澤正晴

兼岡秀俊 河原克雅 北村健一郎 木全直樹 木村朋由 清元秀泰 倉賀野隆裕 熊坂隆一郎 小岩文彦

後藤葉一 木庭新治 古波蔵健太郎 小林 愛 小林修三 小林正貴 小山照幸 今田恒夫 斎藤知栄

齋藤久男 齊藤正和 佐浦隆一 佐伯博子 朔啓二郎 佐々木環 笹富佳江 佐藤壽伸 佐藤 博

塩田悦仁 島田美智子 清水弘毅 水附裕子 杉山 斉 住田幹男 相馬 淳 高橋哲也 高橋直子

田倉智之 田中元子 田淵啓二 田淵牧子 田村岳志 土谷 建 鶴岡秀一 鶴屋和彦 道免和久

友 雅司 中島 衡 中村典雄 中山昌明 成田一衛 西山 成 野村卓生 畠山真吾 花房規男

濱野慶朋 檜垣靖樹 肥後太基 平木幸治 福島正樹 福岡長知 藤元昭一 藤本直樹 古井秀典

星野純一 堀内孝彦 本田浩一 牧田 茂 正門由久 正木崇生 三浦美佐 満生浩司 湊口信也

三間 渉 宮崎真理子 村田敏晃 森 建文 安 隆則 和田隆志 渡辺 敏 (計 122 名)

学 会 事 務 局 よ り



第 6 回学会集会は岡山で開催され、東京で開催された第 5 回学術集会と同様に約 1500 名もの会員・非会員に参加いただき、大盛況のうちに終了しました。この 1 年で理学療法士の会員数が医師の会員数を上回り、また腎不全看護学会の会員である看護師の入会も増えつつあります。学会員のみならず、関連職や社会一般に本学会の趣旨や活動をより広く

知っていただくために、学会広報誌「腎臓リハ NEWS LETTER」を発行しています。今回は、上月理事長から平成 28 年度診療報酬改定の報告と山縣理事からガイドライン委員会の紹介、本学会学術集会の報告・案内、腎臓リハの実施設紹介等の内容となっており、是非ご一読いただければ幸いです。年度末・年度始めのお忙しい中、本誌にご寄稿くださった先生方にこの場を借りて改めてお礼申しあげます。(事務局担当幹事：伊藤 修)